

課題対応取組報告書

名称	城東区董・鯉江東地域包括支援センター			
提出日	7	年	6	月 16 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他()	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	早期に相談に繋がる体制の強化と関係機関の連携による実践力の向上	
地域ケア会議から 見えてきた課題	1.「認知症に関する課題」支援介入時には症状が進行しており、家賃やライフラインの支払いが滞るなど、生活が成り立っておらず介入と同時に代理人等が必要になる事例や適切な医療に繋がっていない事例が増加している。 2.「複合的な課題を抱える世帯の課題」こや配偶者にも何らかの障がいがありキーパーソンとして機能しておらず、適切な支援機関にも繋がっていない。強い拘りや偏った思考により抱え込み介護となり孤立・虐待などへ発展し困難事例化する。 3.「介護予防に関する課題」加齢に伴う筋力低下で活動・外出の機会が減少しフレイルを助長している背景がある。転倒による骨折が原因で身体機能が低下している高齢者が多い	
対象	地域住民、地域関係者、医療・介護・福祉の専門職	
地域特性	【関目地域】地域では地域福祉支援員を中心に男力フェ・ボッチャ・ラジオ体操などが積極的に開催されている一方で、独居率が高く孤立している方が多い。貧困ビジネスが疑われるマンションからの退去希望相談が続いている 【関目東地域】高齢化が進んでいる市営住宅からの相談や生活保護対応のマンションからの相談が増加している。また、オートロックのマンションも増えており住人の把握がしづらい状況がある。 【董地域】担当圏域において高齢者人口が最も多く相談件数も多い。教育・保育・福祉・医療にかかる施設があり、各施設が地域活動協議会に参画しているため地域との連携が強化されている 【鯉江東地域】アクションプランを中心に様々な催しが企画開催されているが、男性高齢者の参加は少ない傾向にある。町会に加入していない方や、脱退する自治会もあり、情報や相談窓口の周知のあり方が課題となっている。	
活動目標	1. 支援を必要とする高齢者個人や世帯を早期に発見し、課題の重度化・困難事例化を予防する。 2. 複合的な課題を抱えた高齢者や世帯を丸ごと支援できる体制を強化し、実践力を向上させる。 3. 地域住民の介護予防と趣味活動を通じた社会参加の促進	
活動内容 (具体的取組み)	①地域包括支援センターの周知活動 ・地域包括支援センターだよりを発行し町会で班回覧1回/月 ・新70歳の方へ包括・ランチの連絡先が載った介護保険者証ケースを配布 ・ゆうちょ銀行にて出張相談会の実施R7.1月～ 月2回 10時～12時 ②介護や認知症に対する理解・備え・予防の啓発 ・認知症サポーター養成講座の実施 (11.2 鯉江東民生委員・地域住民28名) ・キッズサポーター養成講座の実施(9.26董小学校2年生94名)(R7.1.23関目東小学校4年生107名) (R7.2/20.21.25鯉江東小学校4年生107名) ・認知症フェスタの開催(対象:城東区民)R6.10.31 ・ケアフォーラムの開催R6.10.12(対象:圏域地域住民)114名参加 ③複合的な課題を抱えた高齢者や世帯を丸ごと支援できる体制の強化 ・専門職を対象とした勉強会の開催 R6.4.10「認知症の人と家族を支える」 R6.7.2「精神障がいの方の福祉制度について」 R6.8.2「高齢者分野におけるカスタマーハラスメント対応研修会」 R6.10.17「高齢者虐待防止」 R7.2.12「介護予防研修」 ・個別地域ケア会議の開催 R6年度開催回数:16回 ④地域住民の介護予防 ・健康づくりプロジェクト「いきいきウォーキング教室」の開催 R6.11月 ・「男の歩き方教室」R6.9.27 ・文化祭の開催 R6.12.1 ・ボランティアグループ立ち上げ・後方支援「ロバの会」毎週金曜日開催	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	①ゆうちょ銀行での相談会では、通帳・印鑑を度々無くす方や、ATM操作のできない方など認知症が疑われる高齢者をキャッチする機会が多く、今後も継続開催することで早期介入に繋がっていくと考える。 ②キッズサポーター講座については、保護者へもリーフレットをお渡しすることで、多世代へ向け認知症の理解啓発ができています。「人生会議」をテーマにしたケアフォーラムには115名の参加があった。 身近なテーマでACPを体験してもらうことで介護や認知症に対する備えの意識を持っていただく機会となった。 ③専門職を対象とした勉強会は、区全体で取り組むことで、専門職が共通の認識を持つことに繋がっている。また、困難事例については、地域ケア会議を開催することでチームアプローチが実践できた。 ④R6年度は初めて男性のみを対象とした予防教室に取り組み、令和7年度取組へと繋げることができた。文化祭はR5年より個人の制作物などを展示するスペースを設けているが、文化祭での展示を希望する方は前年度よりも多く、活動・参加の促進に繋がれていると考える。	
今後の課題	認知症高齢者やその世帯の課題に加え、令和6年度は独居の男性高齢者の課題が多く見受けられた。早期発見・早期介入を目指し各地域において様々なイベントを企画開催し、多くの方に参加頂いているが、参加者の顔ぶれは同じことが多い。参加を好まない方や情報を知らない方に対するアプローチが課題となっている。「予防」「備え」「地域との繋がり」の意識の底上げを目指すとともに、男性が気軽に集える場についても継続して企画開催していきたい。	